

日仏数学連携拠点 (FJ-LMI)

数学の新研究拠点として、ヨーロッパ最大の基礎研究機関であるフランス国立科学研究センターと東京大学数理科学研究科は2023年9月1日に日仏数学連携拠点 (French Japanese Laboratory of Mathematics and its Interactions 略称 FJ-LMI) を設立しました。これは数学においてフランスとの研究協力・人材育成を目指すもので、拠点設立の署名式が10月3日に安田講堂で行われました。拠点の設立を記念して、駒場キャンパスの桜が満開になる2024年4月4日-5日には、開所記念コンファレンスが開催され、藤井輝夫総長・CNRSのデルサン教授・フランス大使館からの来賓による祝辞に続き、純粋数学から応用数学に亘る著名な8名の研究者が当研究科棟の大講義室で講演を行いました。

CNRSがフランス国外の大学や研究組織と協力する形態には、萌芽的協力(IEA)、研究ネットワーク(IRN)、研究プロジェクト(IRP)、国際研究拠点(International Research Laboratory 略称 IRL)の4種類あり、この順に協力レベルが深く強力なものと定められています。今回、数理科学研究科が締結したのは、もっとも深いレベルである国際研究拠点です。東京大学におけるCNRSとの連携拠点の最初のもは生産研のLIMMS(藤井総長が日本側元代表)で、最近では、2021年に柏キャンパスに設立されたILANCE(梶田隆章氏が日本側代表)や2022年に本郷キャンパスに設立されたIRL-DYNACOM(大越慎一理学部長が日本側代表)があり、2023年度に駒場キャンパスに設立された日仏数学連携拠点(FJ-LMI)が東大では5つ目となります。また、数学においては日本国内で初めてのIRLとなります。

数学の分野において、日本とフランスは100年近くに亘って高いレベルで相互にインスピレーションを与えあって発展してきました。新しい日仏の数学研究拠点は、これまでに個々の数学者の間で培われてきた協力関係を、システムとして支援するもので、4つの研究領域、(1)整数論と代数幾何、(2)リー群論・幾何学的群論・表現論、(3)偏微分方程式・逆問題、(4)生物学や生命科学への数学の応用、でスタートします。拠点には、フランスから研究者が中長期に滞在することが可能になります。

新拠点の目的は、数学の広い分野に日仏の研究協力と人材育成を深化させることです。研究者が成果をあげることに加えて、学生を含む若い世代が直接交流することで、研究者のネットワークを作り上げ、国際的に活躍する基礎となることを期待しています。

(文責 小林 俊行)



2024年4月開所記念コンフェレンス Ghys教授 右端は藤井総長 Voisin教授